

若手研究者のための熱利用・環境技術ワークショップ 開催報告

化学工学会 エネルギー部会 熱利用分科会 第4回若手セミナー

平成27年11月13日～14日

平成27年11月13日（金）～14日（土）の2日間に亘り、八王子セミナーハウスにおいて、「若手研究者のための熱利用・環境技術ワークショップ」を開催し、熱利用や環境技術の研究を行っている学部学生・大学院生を中心とした25名の参加者により活発な議論が交わされた。

本ワークショップは熱利用分科会が次の世代の熱利用研究を担う若手研究者・技術者の育成を目的として開催してきた若手セミナーの4回目に当たるが、今回は初の試みとして日本機械学会環境工学部門「吸収・吸着を用いた環境制御技術の高度化に関する研究会」と共催し、化学工学のみならず機械工学の研究者も交えた幅広い情報・意見交換ならびに交流促進を目指した。このために会の名称を変更するとともに、日本機械学会の上記研究会と緊密に企画内容についての議論を行いつつ準備を進めた。この結果、大学の研究者による2件の話題提供と参加学生による4回のミニ話題提供・自由討論を実施した。

研究者らの話題提供では、千葉大学劉先生には化学蓄熱の基礎、材料設計のコンセプト、最新の研究内容までを丁寧にご説明いただいた。また、九州大学宮崎先生からは吸着技術研究の魅力を学生とは別の観点からご紹介いただくとともに、吸着冷凍機の熱力学的取り扱いについて分かりやすくご説明いただいた。お二方の講演では、はじめに化学工学と機械工学の立ち位置の違いとつながりを述べられていたのが印象的であった、

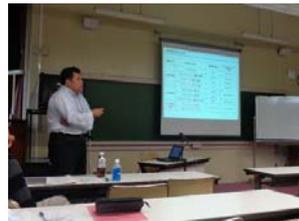
つづくミニ話題提供・自由討論では、参加者を3～4名の4グループに分け、グループごと2～3名の学生さんに5～10分話題提供をしていただいた後、自由に質疑・討論を行った。化学工学と機械工学の初対面の学生さん同士が初めて聞く内容での議論となったが、学生同士で次々に質問や提案が出るなど非常に活発な議論となり、各回いずれも時間が足りないほどであった。2回のミニ話題提供・自由討論の後、バーベキュー会場に席を移して夕食を取りながら、くだけた雰囲気の中でさらに討論を行った。その後の意見交換会では、教員・学生と一緒に自由な会話を楽しみ、学生間

だけでなく、教員と学生間の交流も深まった。

2日目はWorld Café形式によるグループ討論を企画していたが、ミニ話題提供の時間が十分でなかった点、全ての話題を聞くことができなかった点などを考慮して、1日目と同じミニ話題提供・自由討論に変更し、2回実施した。初日を頑張りすぎてやや疲れ気味の学生・教員も見られたが、1日目同様、充実した意見交換ができた。

2日間のワークショップを通して、熱利用・環境技術分野の化学工学と機械工学の教員・学生の相互理解、交流が大いに促進されたと実感し、開催意義は大きかったことから、今後も継続的に開催していくことが重要と思われる。

（若手セミナー担当：窪田 光宏）



話題提供の様子（左：劉先生，右：宮崎先生）



ミニ話題提供・自由討論の様子



集合写真